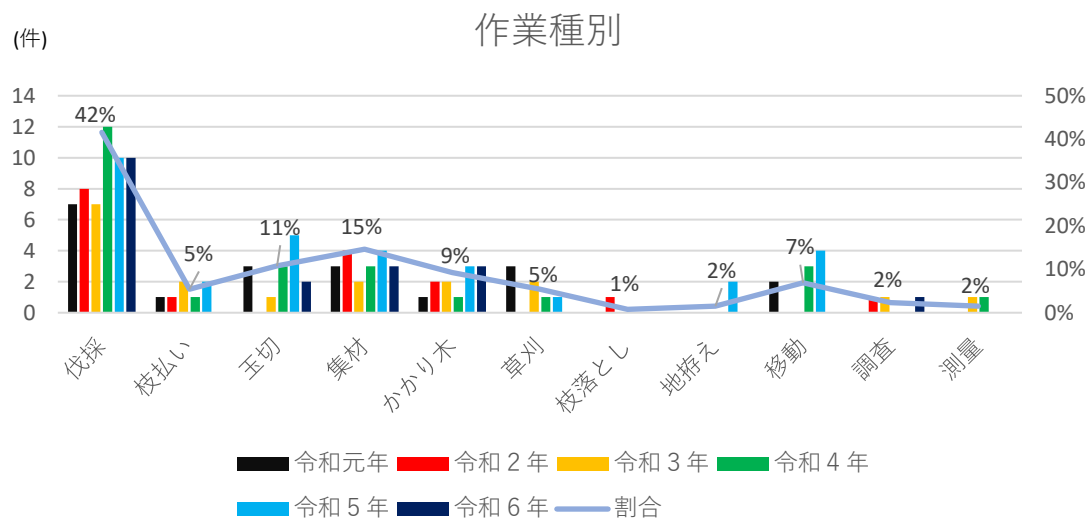


林業における労働災害発生状況①

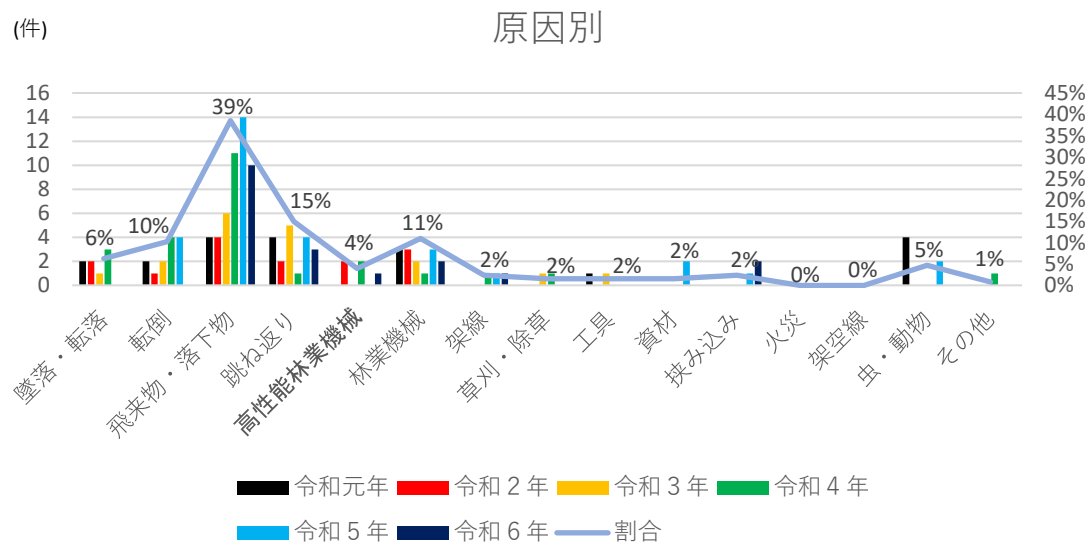


< 作業種別 >

伐採時が突出して多く約4割を占める。

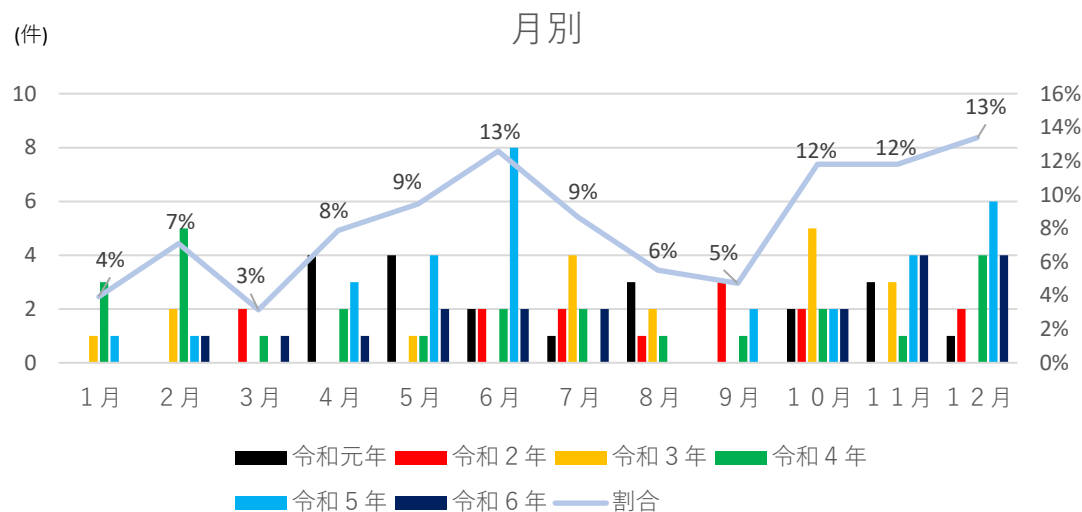
< 原因別 >

- ・ 伐倒木（かかり木含む）や枝・材等の飛来物や落下物が全体の約4割を占める。
- ・ 墜落・転落、転倒による原因が2割を占めており、作業時や移動時において足元の注意（特に降雨時、降雨後）が必要。



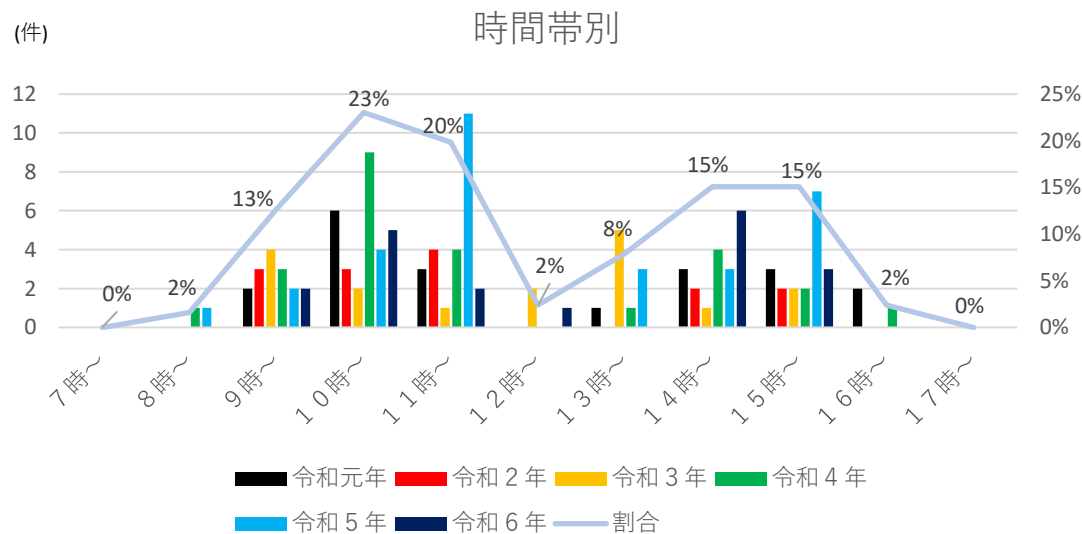
- ・ 思わぬ方向に倒れる、跳ね返る、枝・材が飛んでくるという「想定外」による労働災害が大半を占めている。事前の「危険予知」や伐倒時の「退避の徹底」が肝要。

林業における労働災害発生状況②



< 月別 >

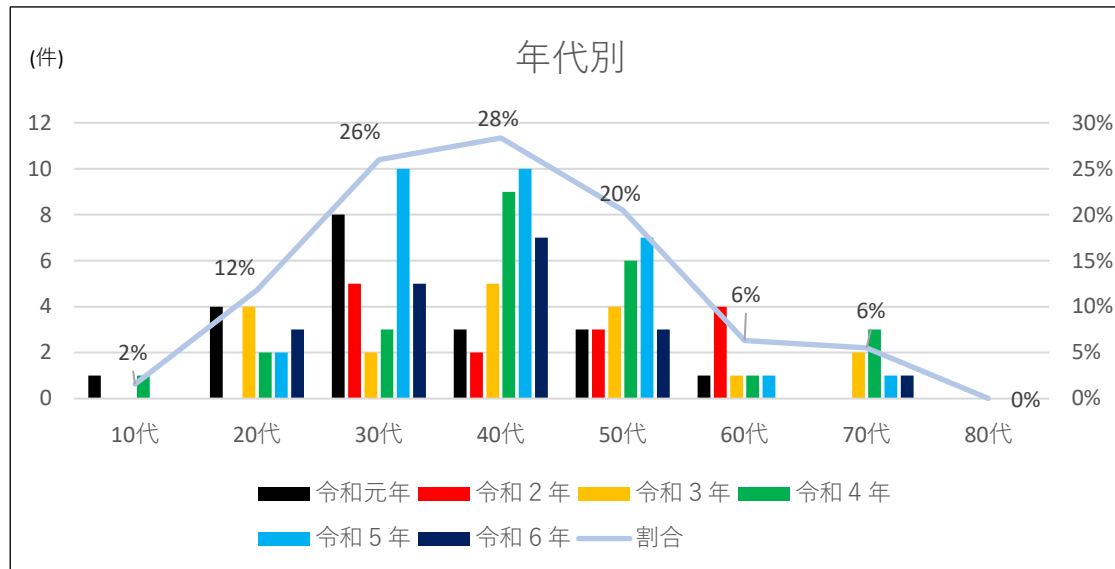
- ・ 10月～12月が多く、1月～3月は少ない。
- ・ 秋から冬にかけて繁忙期で作業量の増加、梅雨や台風の影響で事故に繋がりがやすい。



< 時間帯別 >

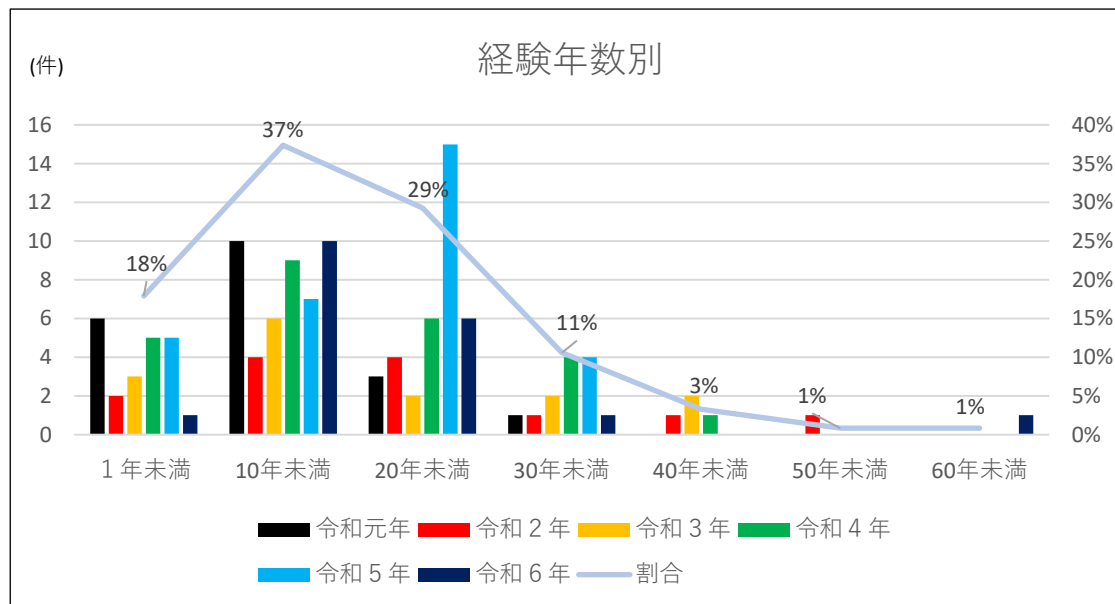
- ・ 作業を始めて2時間後の10時台～11時台、昼食後の14時台～15時台に労働災害が多く発生。
- ・ 作業開始から一定時間が経過し、集中力が切れやすい頃に多い。

林業における労働災害発生状況③



<年代別>

- ・ 30代～50代で約7割を占めており、その中でも40代が最も多い。
- ・ 現場での経験が豊富になる一方で、管理業務と実務の両方をこなすことが多いため、負担の増加が事故に繋がりがしやすいのではないかと。



<経験年数別>

- ・ 1年未満～10年未満で約6割、20年未満で約3割を占めている。
- ・ 経験を重ねても怪我をする＝「慣れたところに怪我をする」